

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年10月24日

予報期間：10月26日～11月25日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

- ・全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

北・東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

西日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

# 全般1か月予報

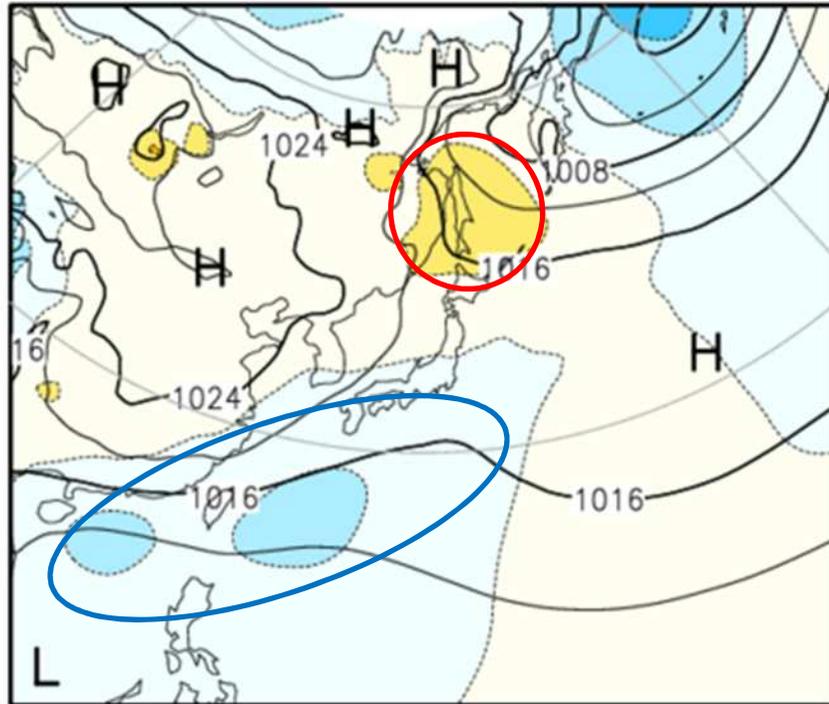
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	30:40:30	40:30:30	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
東日本	日本海側	10:10:80	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		10:30:60	50:40:10	
西日本	日本海側	10:10:80	10:40:50	40:40:20	
	太平洋側		10:40:50	40:40:20	
沖縄・奄美		10:10:80	10:30:60	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:20:70	10:30:60	20:30:50
東日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
西日本	10:10:80	10:20:70	10:40:50
沖縄・奄美	10:10:80	10:20:70	10:40:50

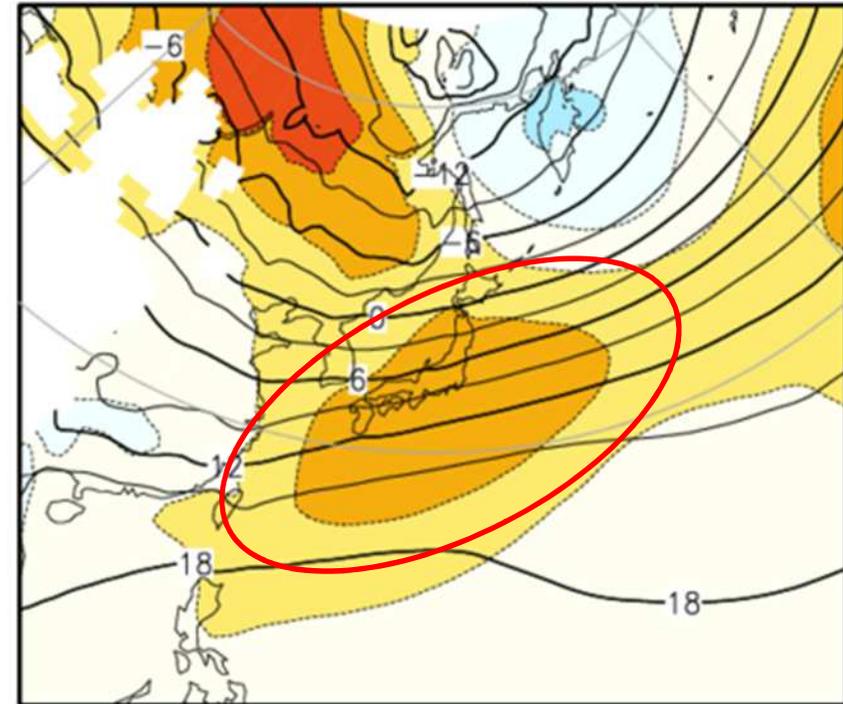
## 全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。期間の前半は全国的にかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では多く、北日本太平洋側と東日本日本海側では平年並か多いでしょう。向こう1か月の日照時間は東日本太平洋側では少なく、北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本と沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。

## 海面気圧(1か月)

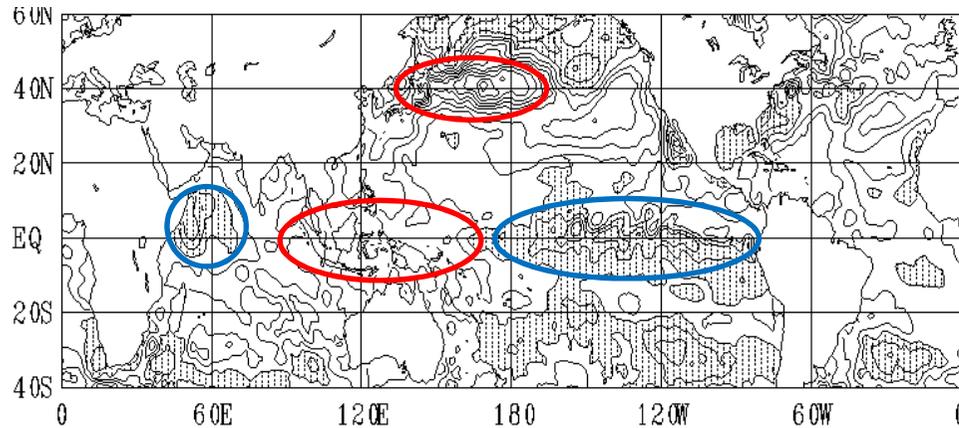


## 上空約1500mの気温(1か月)



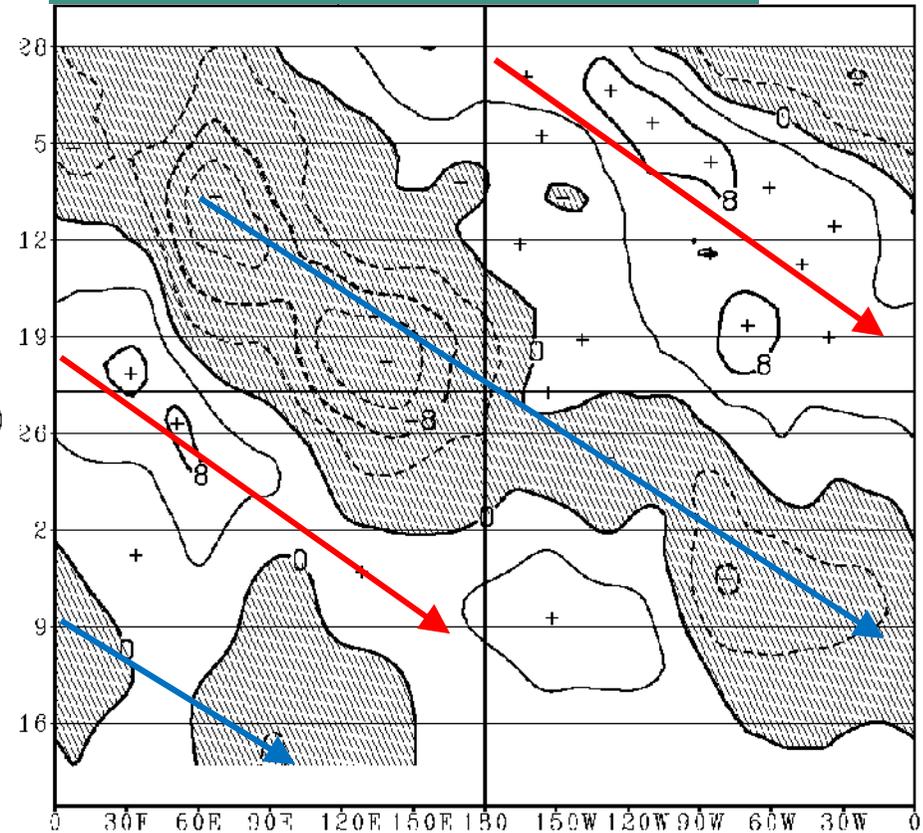
1か月平均の海面気圧(左図)は、日本の北では気圧が高い一方、東日本から沖縄・奄美にかけては気圧が低く、全国的に低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込みです。  
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

## SST偏差



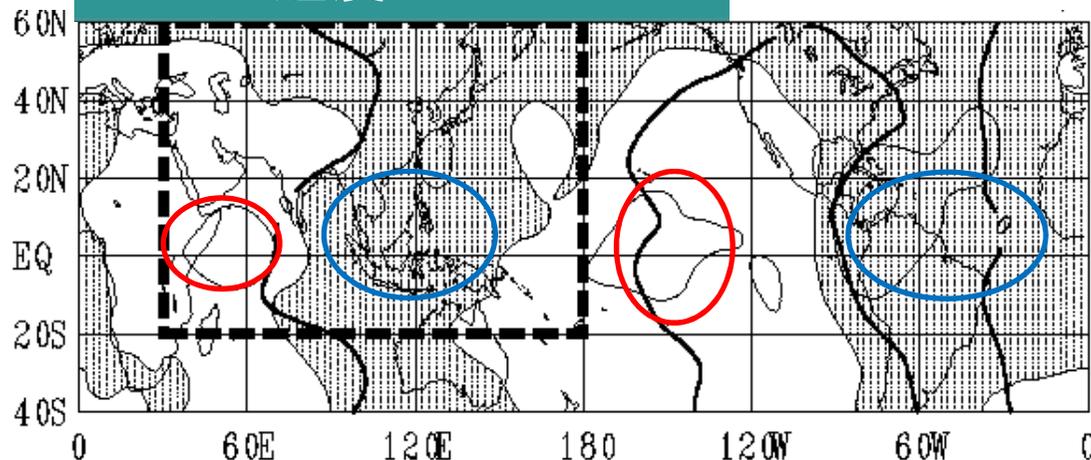
・熱帯域では、インド洋東部から太平洋西部にかけて正偏差。インド洋西部と太平洋赤道域中部から東部にかけて負偏差。日本周辺海域や日本の東で正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



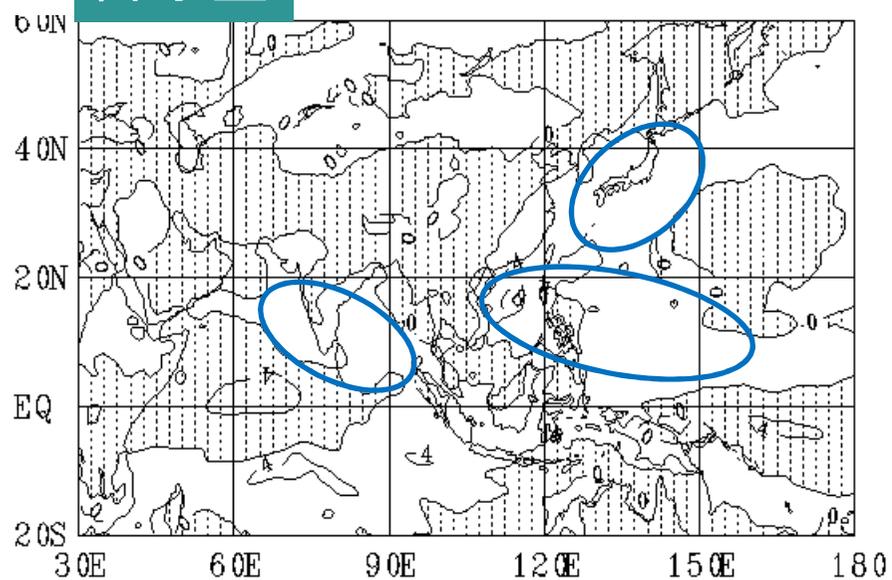
・実況ではインドネシア付近での上層発散、大西洋付近での上層収束が明瞭。その後、対流活発域は東進。インド洋付近の対流活動は一旦弱まるものの期間の後半には再び活発となる傾向。

## 200hPa速度ポテンシャル



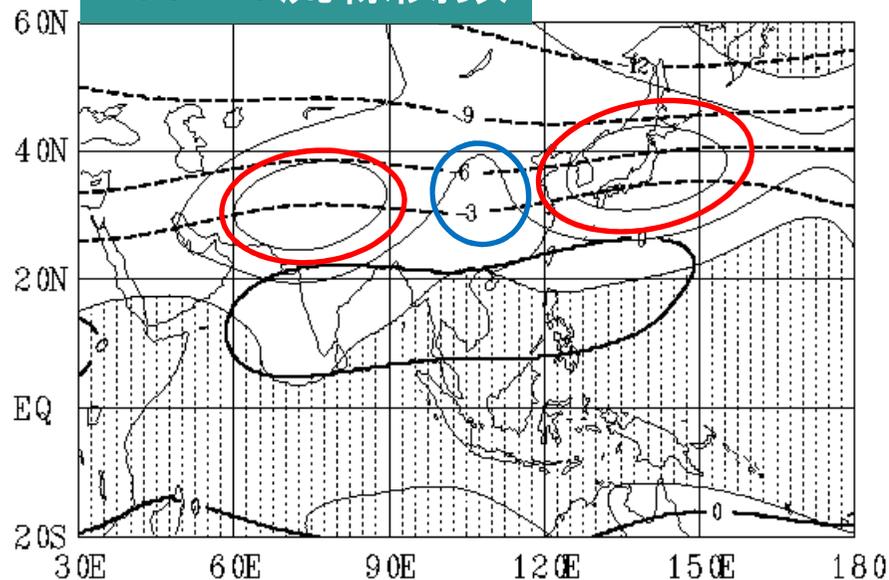
インド洋東部から太平洋西部にかけてと大西洋付近で上層発散偏差、インド洋西部と太平洋中部で上層収束偏差。

## 降水量



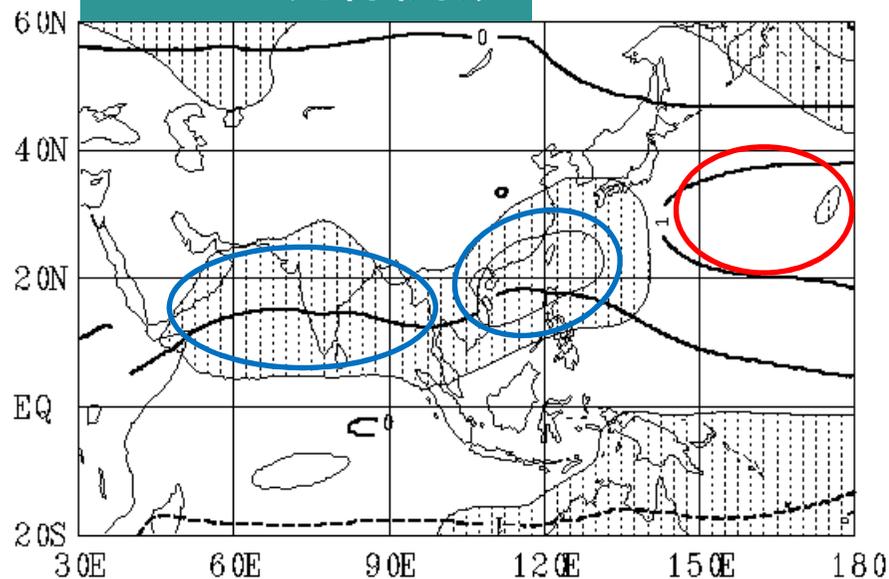
インド付近、南シナ海からフィリピンの東にかけてと、日本付近で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



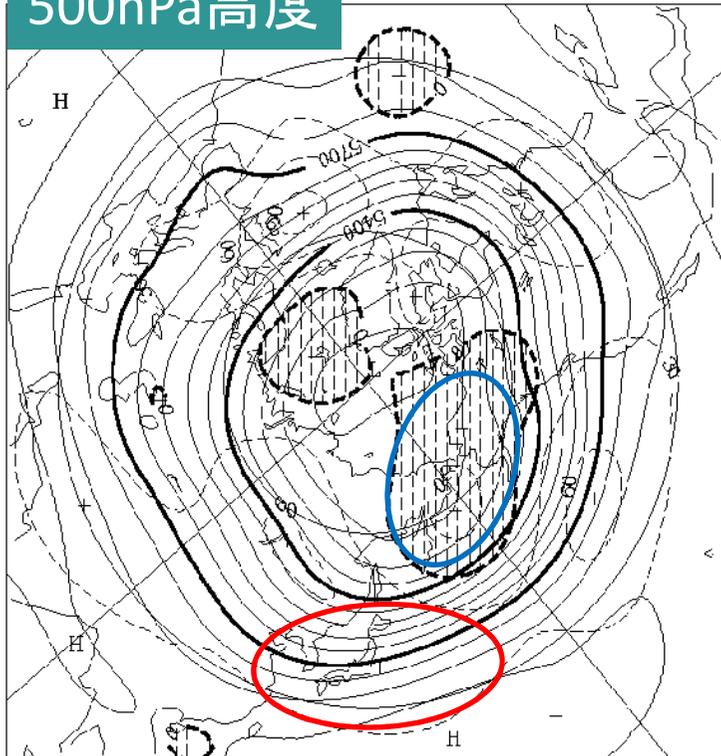
中緯度帯には波列パターンが見られ、インドの北、本州付近で高気圧性循環偏差、華北付近で低気圧性循環偏差。日本付近は西谷の傾向。インドの北の高気圧性循環偏差には、インド洋東部から太平洋西部にかけての上層発散偏差の影響もあると考えられる。

## 850hPa流線関数



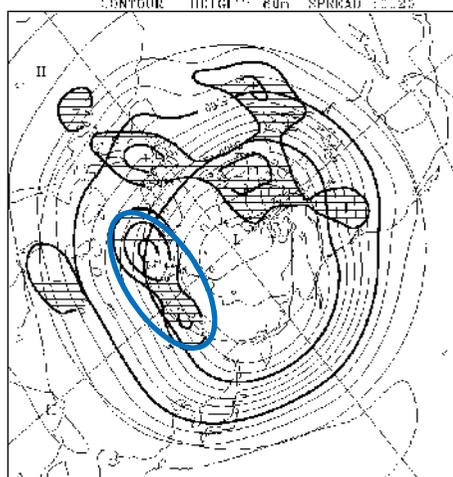
アラビア海からベンガル湾にかけてと南シナ海付近で低気圧性循環偏差。日本の東で高気圧性循環偏差。南シナ海付近の低気圧性循環偏差は1週目の台風の影響等を反映している。

## 500hPa高度



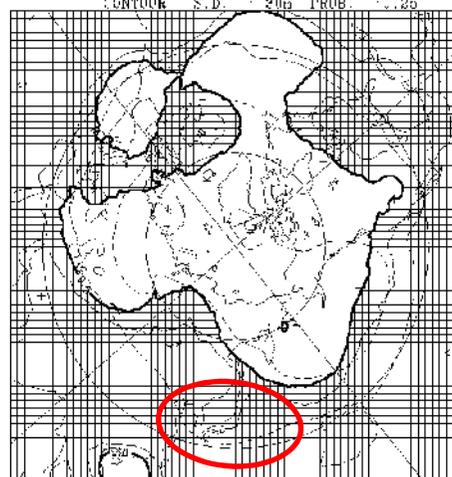
500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



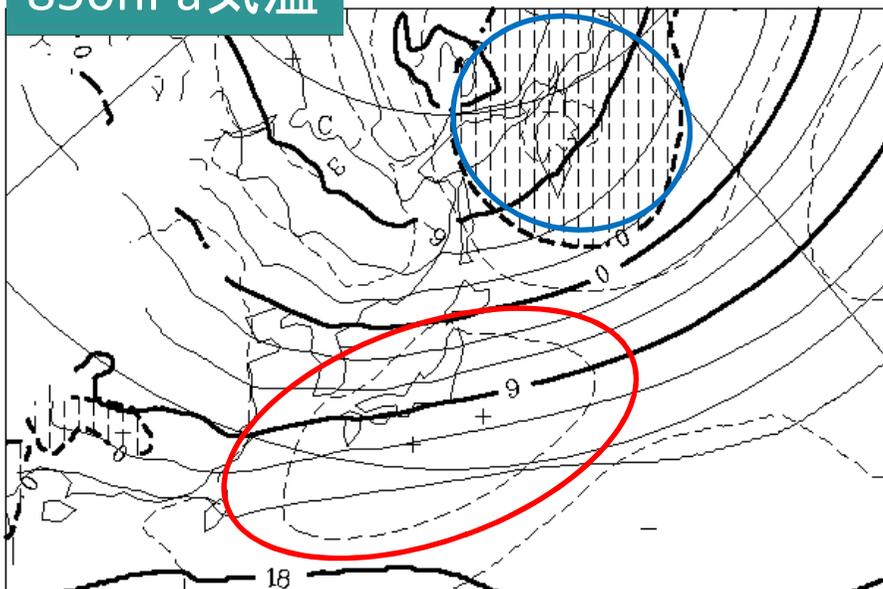
CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 10.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25



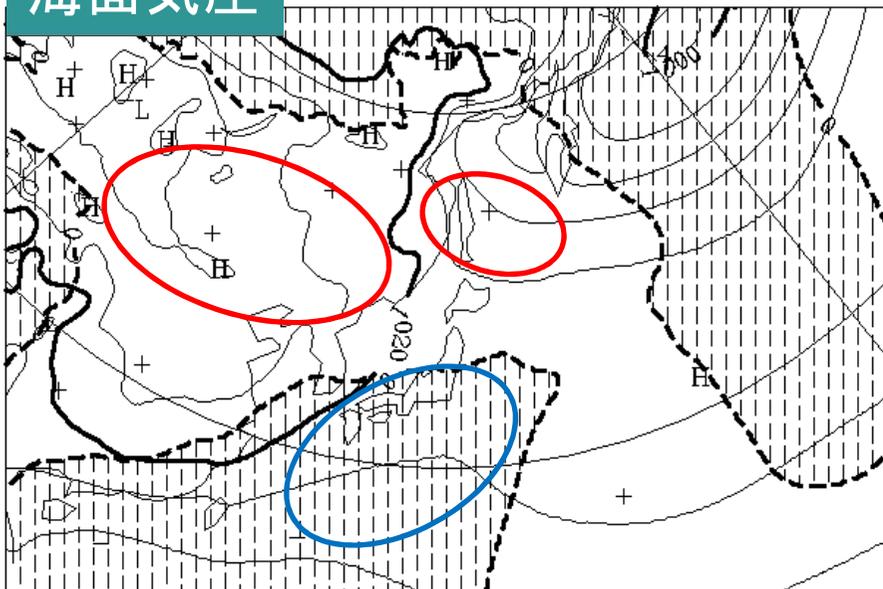
日本付近は広く正偏差に覆われる。ベーリング海付近には負偏差が見られる。西シベリア付近にスプレッドの大きい領域が見られるが、日本付近の正の高偏差確率は大きく、正偏差に覆われやすい予測は採用する。

## 850hPa気温



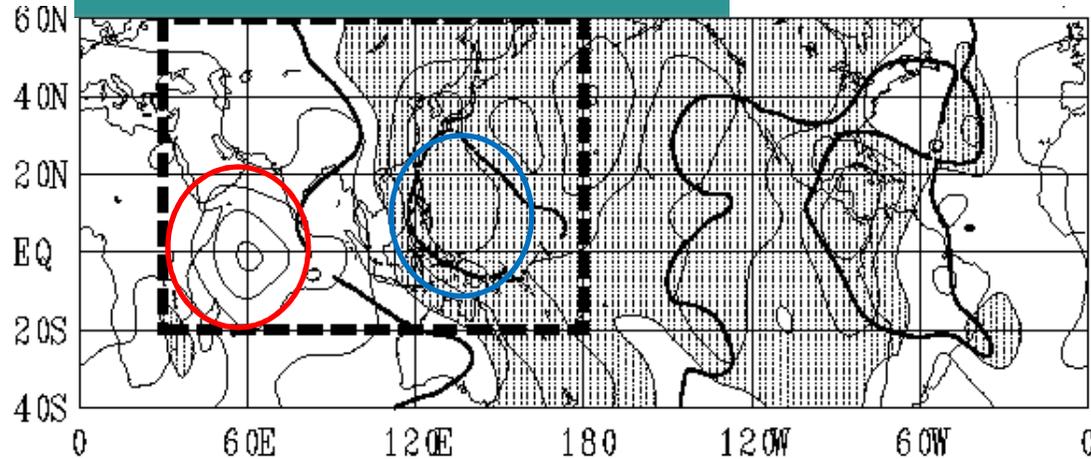
日本付近は広く高温偏差に覆われる一方で、カムチャツカ半島付近には低温偏差域も見られる。

## 海面気圧



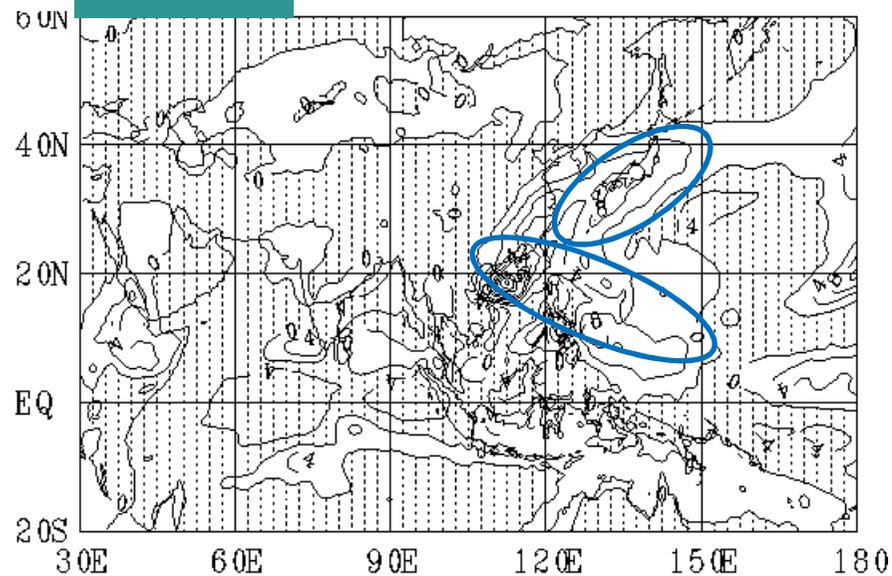
大陸付近とオホーツク海付近で高気圧偏差、東日本から沖縄・奄美にかけては低気圧偏差が見られ、全国的に、前線や低気圧、湿った空気の影響を受けやすい見込み。

## 200hPa速度ポテンシャル



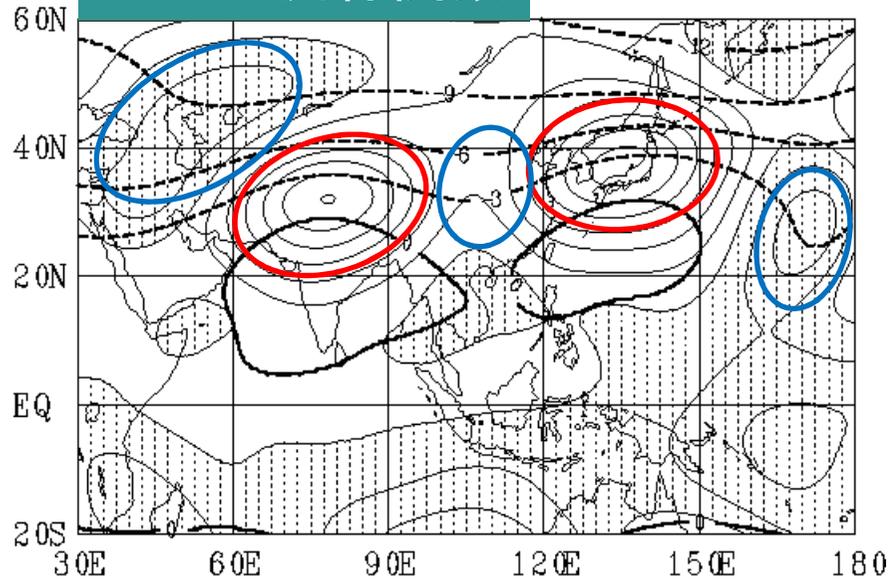
フィリピンの東で上層発散偏差、インド洋西部で上層収束偏差。

## 降水量



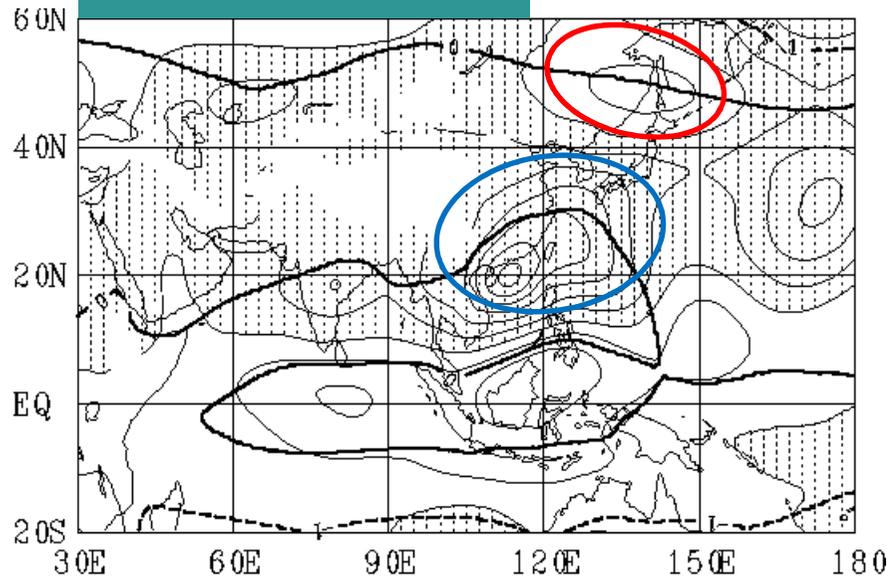
南シナ海からフィリピンの東にかけてと日本付近で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



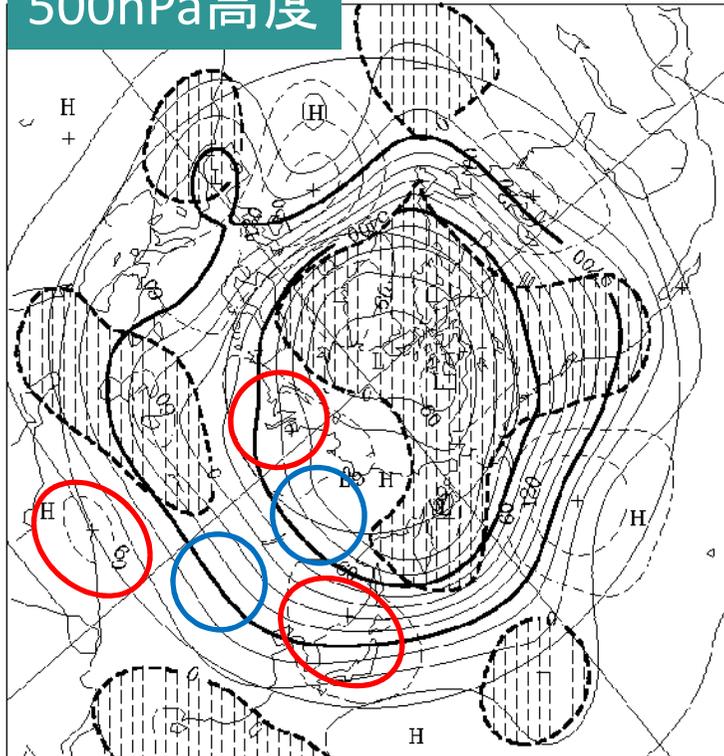
中緯度帯は波列パターンが明瞭で日本付近は顕著な高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数

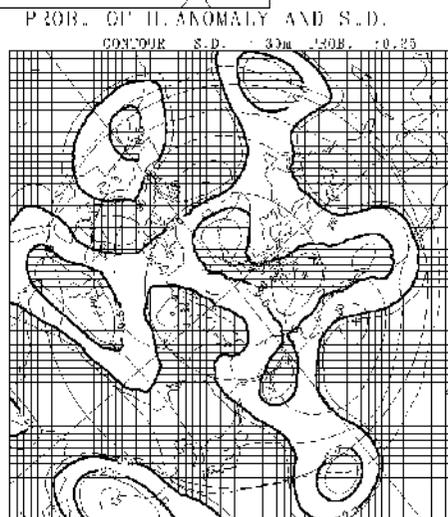
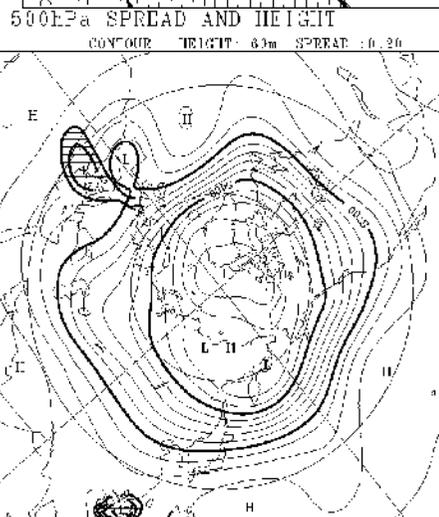


熱帯じょう乱等の影響で南シナ海から本州付近にかけて低気圧性循環偏差。オホーツク海付近で高気圧性循環偏差。

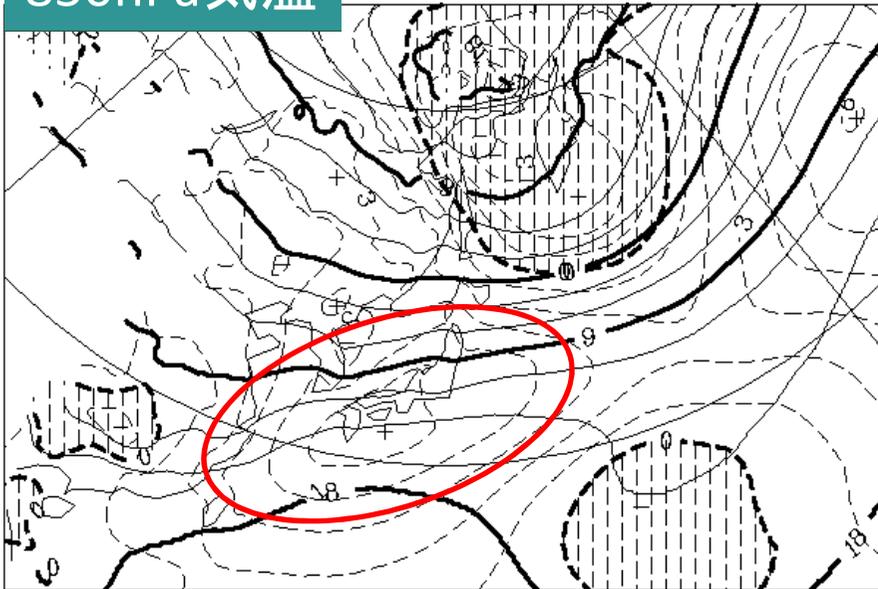
## 500hPa高度



寒帯前線ジェット上、亜熱帯  
ジェット気流上の波列パターン  
の影響で、日本付近は正偏差。

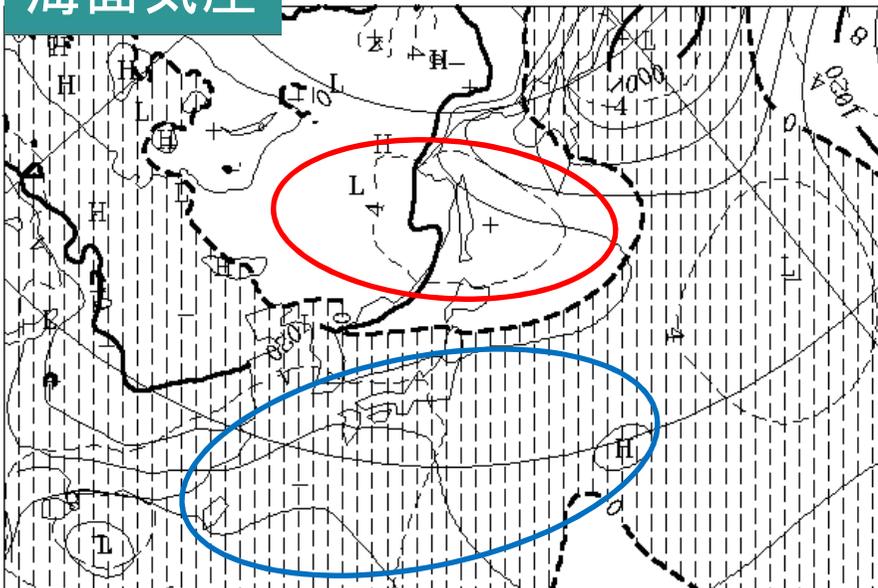


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差。

## 海面気圧



日本の北で高気圧偏差。日本付近は北海道を除き低気圧偏差となり、低気圧や前線、熱帯じょう乱の影響を受けやすい見込み。

## 想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
北・東日本太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。  
東日本日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。  
沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

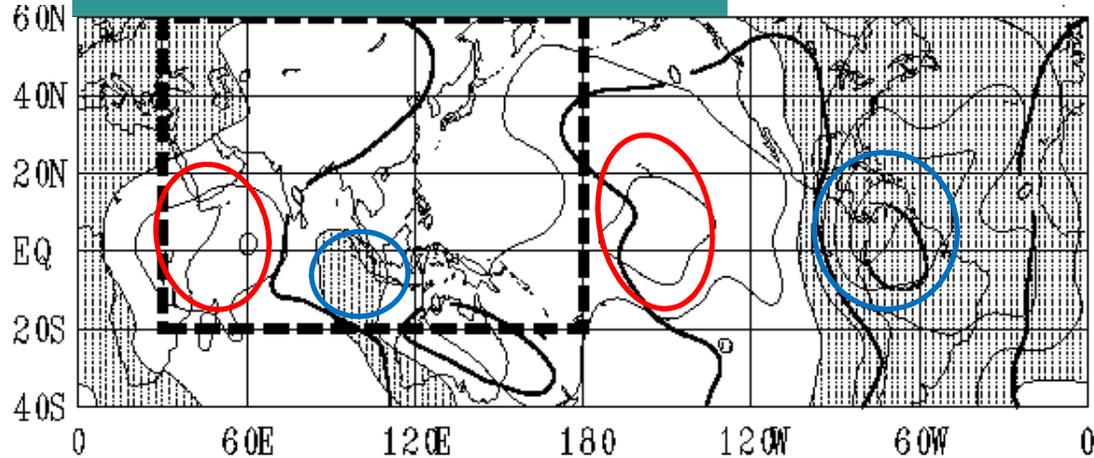
### <気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国高温で、かなり高くなる。

### <天候>

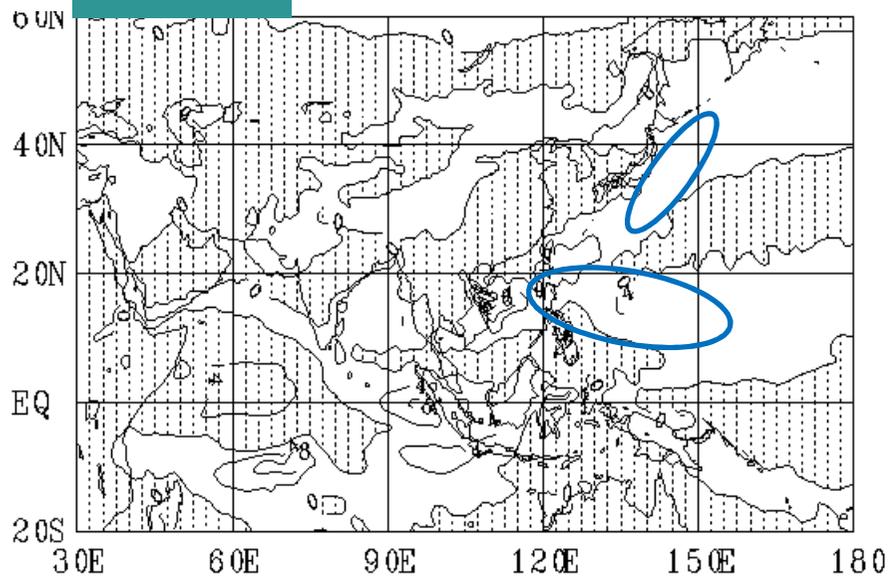
- ・北日本日本海側では、湿った空気の影響を受けやすいため、並雨・やや寡照。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすいため、北日本太平洋側では、多雨傾向・寡照傾向、東・西日本では、多雨・寡照。
- ・沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすいため、多雨・寡照。

## 200hPa速度ポテンシャル



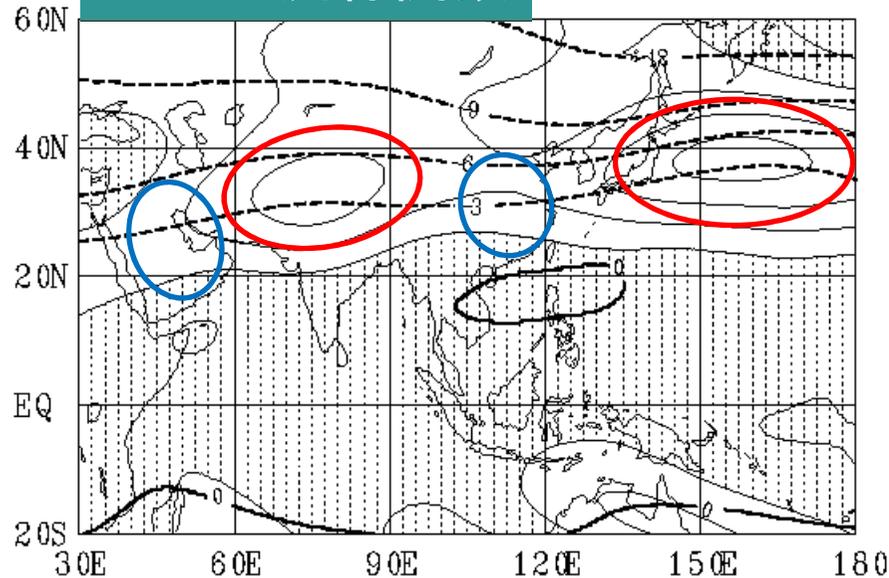
インド洋東部、中米付近で上層発散偏差、インド洋西部、日付変更線の東側で上層収束偏差。

## 降水量



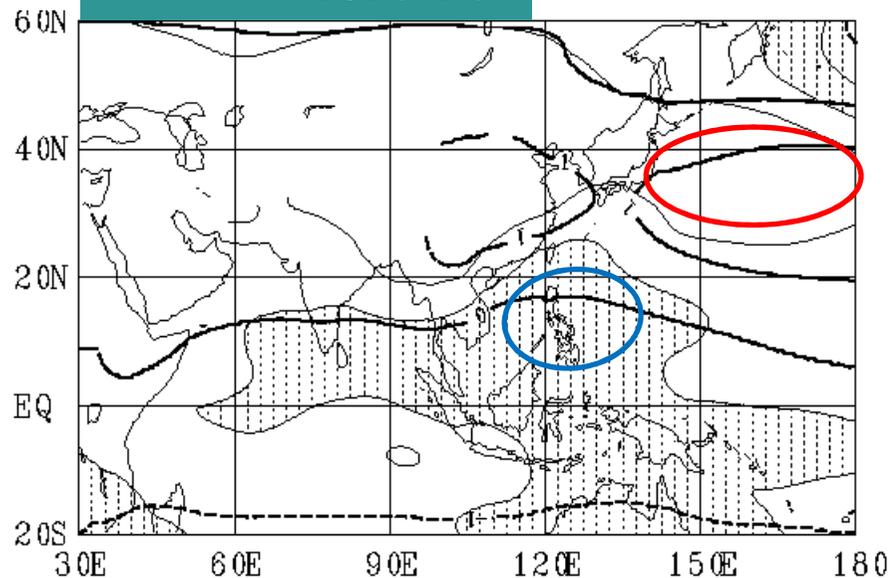
フィリピンの東、日本の東付近で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



中緯度帯は波列パターンが見られ、華北付近で相対的な低気圧性循環偏差、本州付近から日本の東にかけては高気圧性循環偏差。

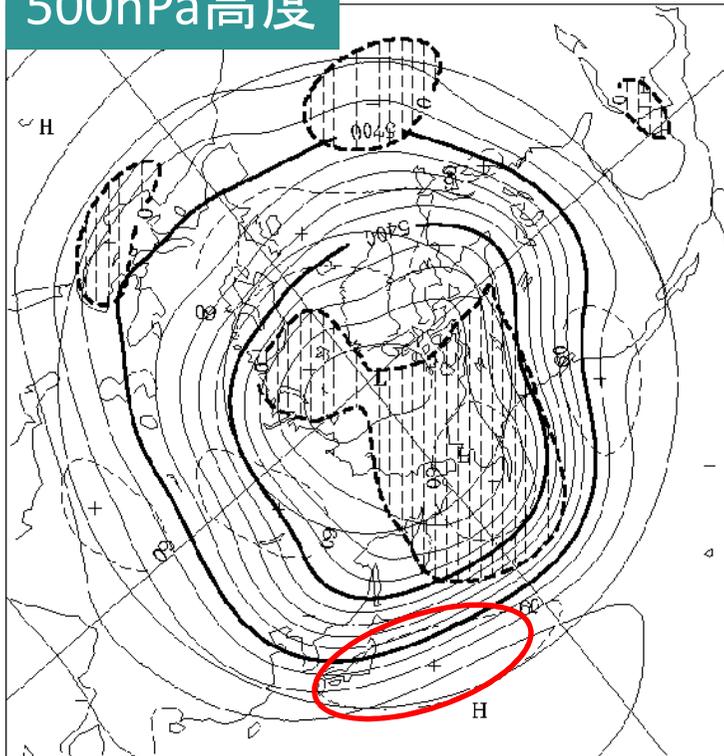
## 850hPa流線関数



日本の東で順圧的な高気圧性循環偏差。フィリピン付近は引き続き低気圧性循環偏差。

# 予報資料の解釈 2週目(11/2~11/8)

## 500hPa高度



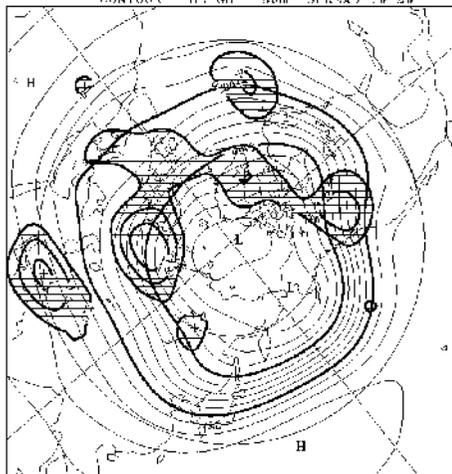
日本付近は広く正偏差に覆われる。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

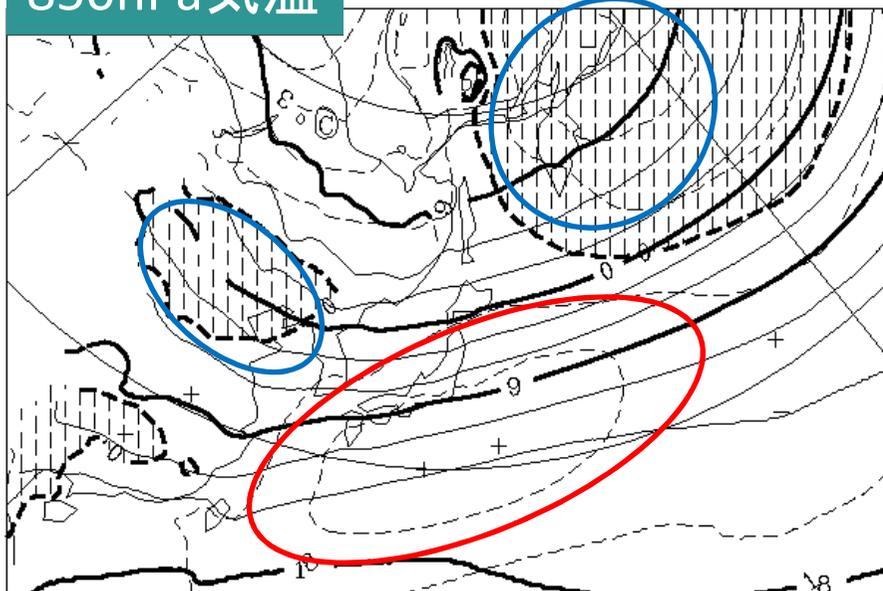
PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 300 200 0.25

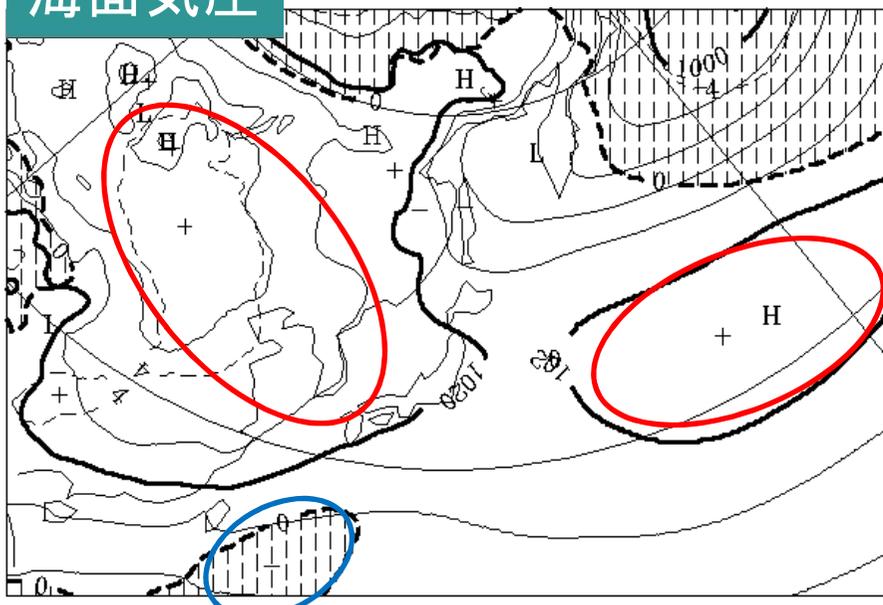


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われるが、華北付近、カムチャツカ付近には低温偏差域も見られる。

## 海面気圧



大陸と日本の東で高気圧偏差。沖縄・奄美の南では気圧の低い領域が見られ、沖縄・奄美では、低気圧や湿った空気の影響を受ける時期もある見込み。

### 想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
東・西日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

#### <気温>

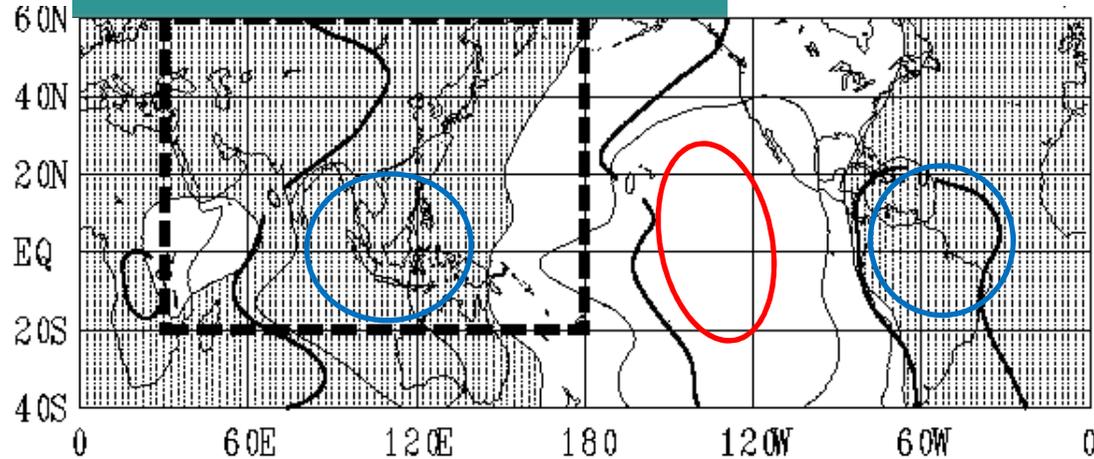
・暖かい空気に覆われやすいため、全国で高温で、かなり高くなる。

#### <天候>

・北・東・西日本では、並雨・並照。

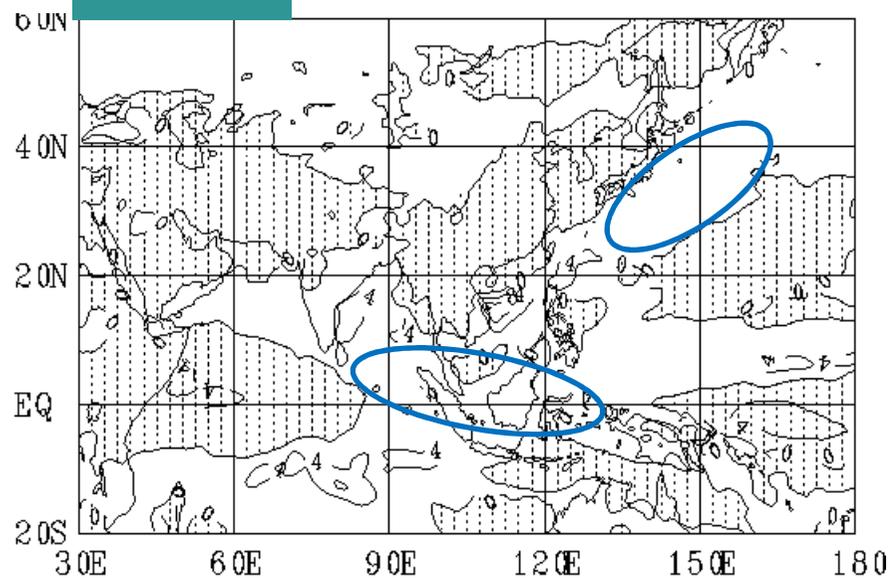
・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受ける時期があるため、やや多雨・並照。

## 200hPa速度ポテンシャル



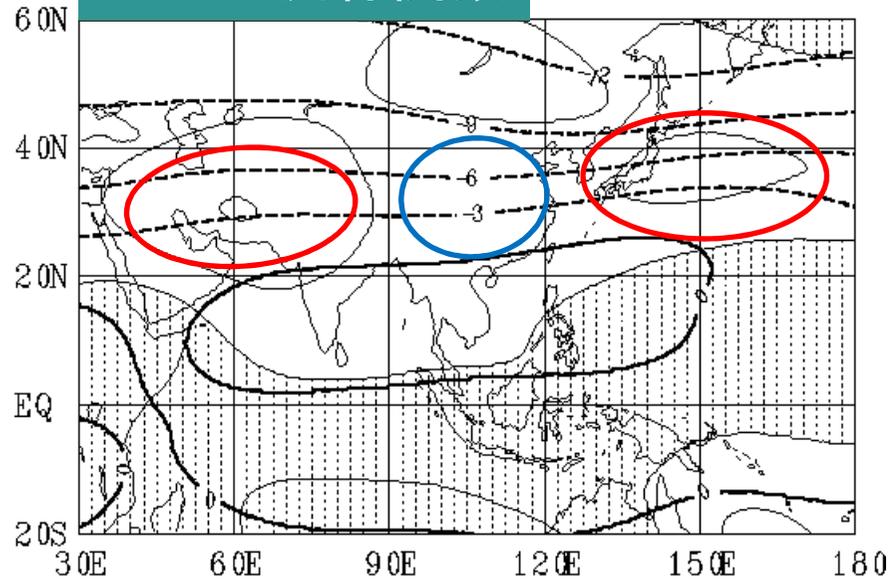
インドネシア付近、大西洋西部で上層発散偏差、太平洋中部で上層収束偏差。

## 降水量



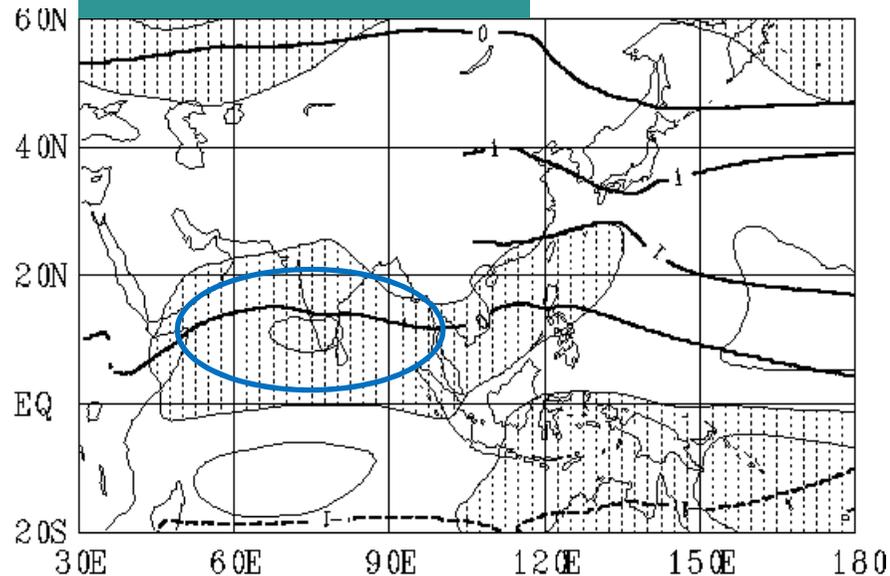
インドネシア付近、日本の南東で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



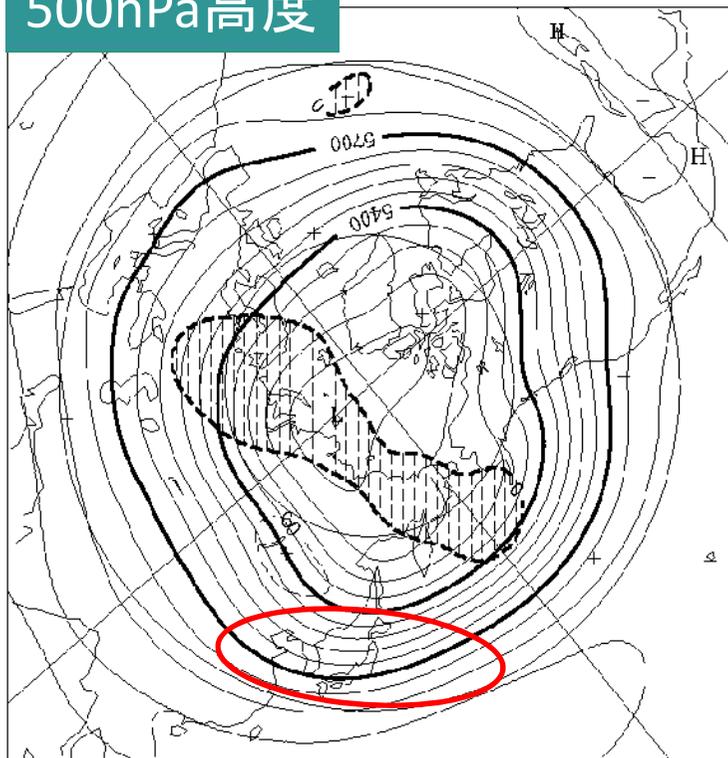
亜熱帯ジェット気流上に波列パターンが見られ、日本付近で高気圧性循環偏差。インド北西の高気圧性循環偏差には、インド洋東部付近の対流活発の影響もあると考えられる。

## 850hPa流線関数

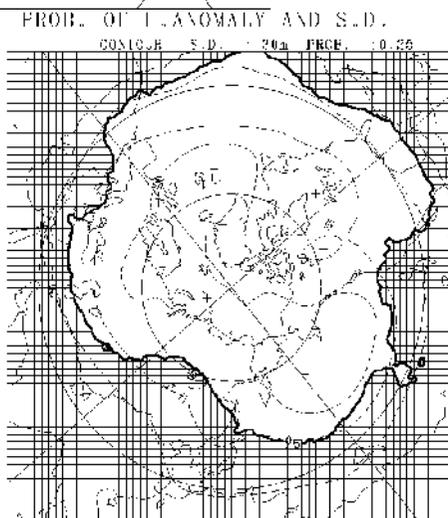
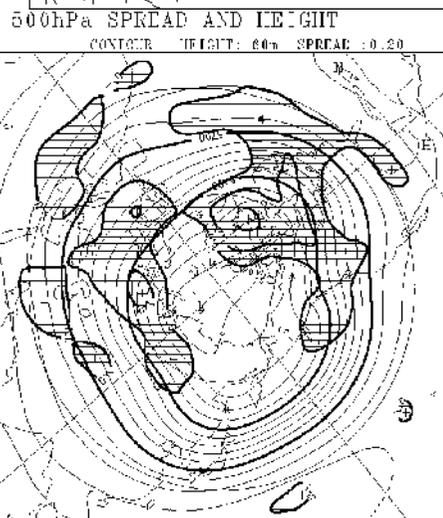


インドネシア付近の対流活発に対応してアラビア海からベンガル湾にかけて低気圧性循環偏差。

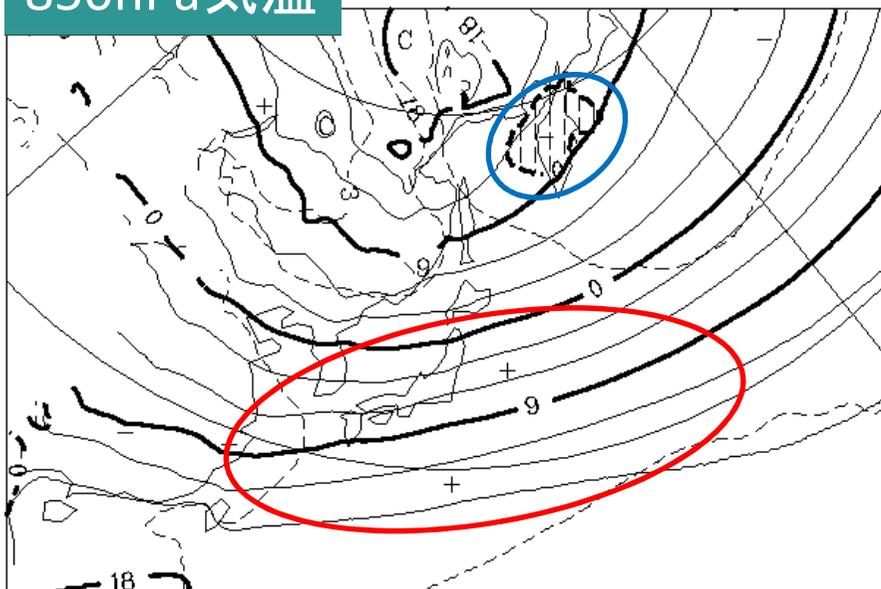
## 500hPa高度



日本付近は広く正偏差に覆われ、偏西風は平年より北寄りを流れる見込み。

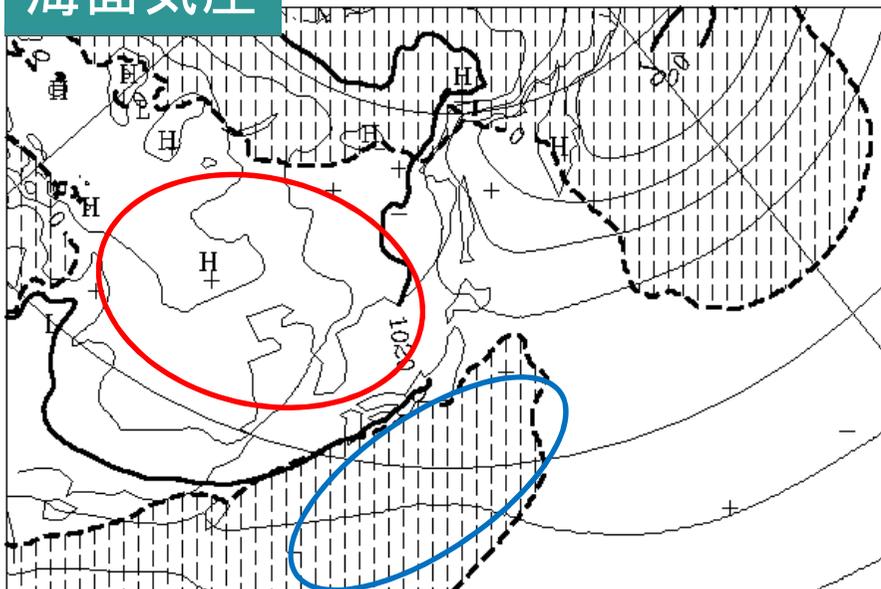


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われるが、カムチャツカ半島付近には低温偏差域も見られる。

## 海面気圧



大陸に高気圧偏差、日本の南に低気圧偏差が見られるが、不確実性等を考慮しこの傾向は割り引き、全国的に平年の天候との隔たりは小さいと考える。

## 想定される天候

北・東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
西日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

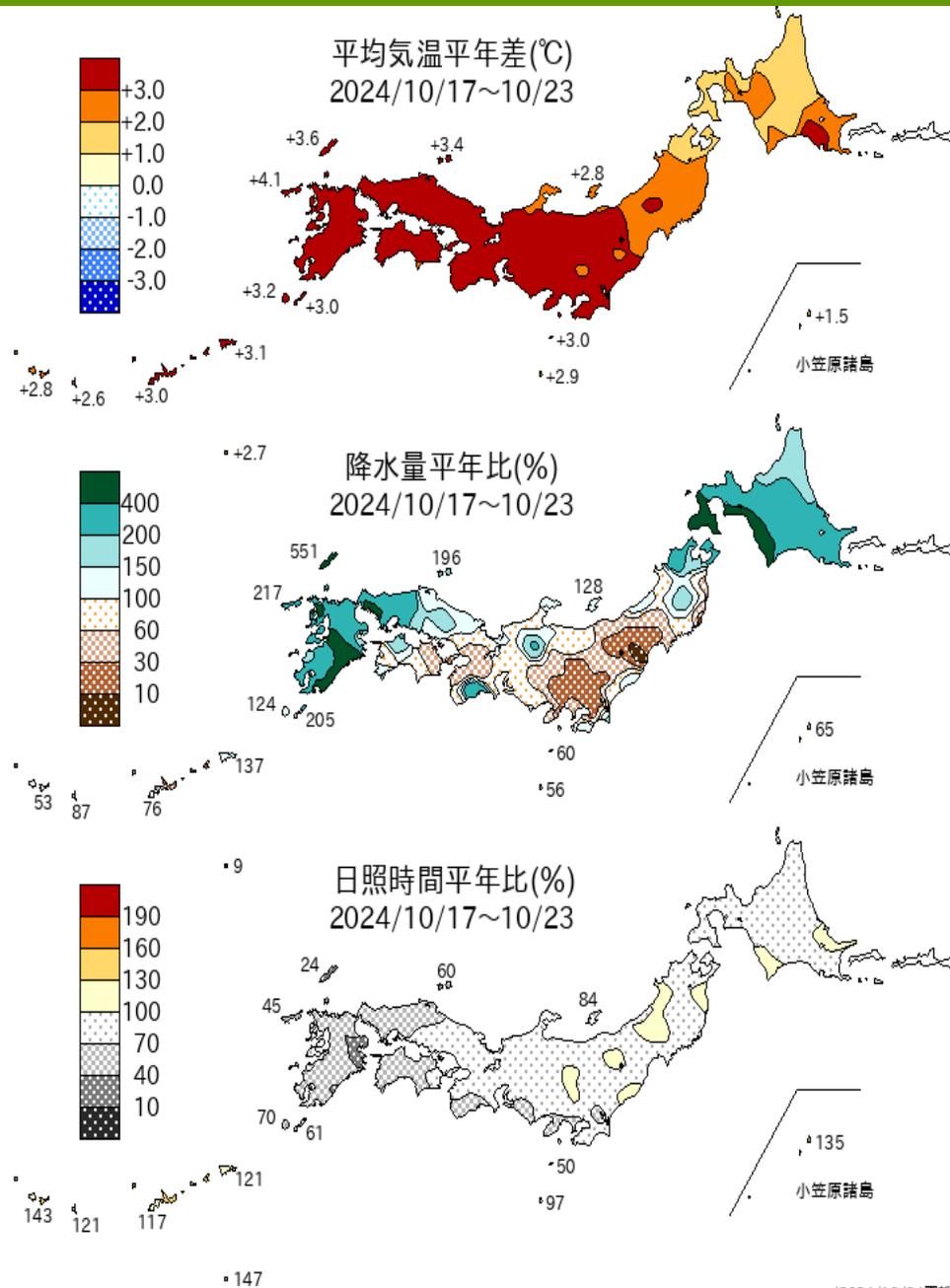
### <気温>

- ・北・東・西日本では、寒気の影響を受けにくいいため、高温。
- ・沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすいため、高温。

### <天候>

- ・全国で、並雨・並照。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(10月17日~10月23日)は、北・東・西日本では、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、22日は宮崎県で線状降水帯が発生するなど大雨となった所もありました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすかったため、晴れた日が多くなりました。気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすかったため、平年に比べ高い所が多く、観測史上最も遅い真夏日を観測する地点もあるなど、東・西日本を中心に顕著に高くなりました。